

神戸市ネットモニターアンケート調査結果

テーマ	生きもの・自然と共生する都市“こうべ”を目指して
調査期間	令和元年6月25日（火曜）～7月8日（月曜）
設問数	全9問（分岐設問除く）
対象モニター数	5,464名
回答モニター数	3,665名（67.1%）

【調査結果概要】

神戸市では、神戸の豊かな自然とそのめぐみを次世代に引き継ぐために、生物多様性の保全に関する取り組みを進めています。このような取り組みに対する市民の皆さまのご理解・ご協力の状況などをお伺いし、今後の施策を考えていく上での参考とさせていただくため、ネットモニターの皆さまにアンケートを行いました。

「生物多様性」という言葉の意味を知っている、あるいは聞いたことがあると回答した方が7割を超えました。平成28年9月に実施したネットモニターアンケートでの同様の質問に対する回答では7割に満たなかったことから、多様な環境の個性豊かな生きものつながりを示す「生物多様性」という言葉が多くの方に認知されつつあると考えられました。

市内の身近なところで野生動物を見たことがあると回答された方が約6割で、そのうち7割の方が「イノシシ」を挙げられました。アライグマ、ヌートリアを見たことがあると回答した方も合わせて約2割おられ、市内の身近なところで、このような外来種が見られていることがわかりました。

アカミミガメが「指定外来種」であり、アカミミガメを野外へ放してはいけないことを知っているという回答した方、「指定外来種」であることは知らないけれども、アカミミガメを野外へ放してはいけないと知っているという回答した方が合わせて6割を越えました。

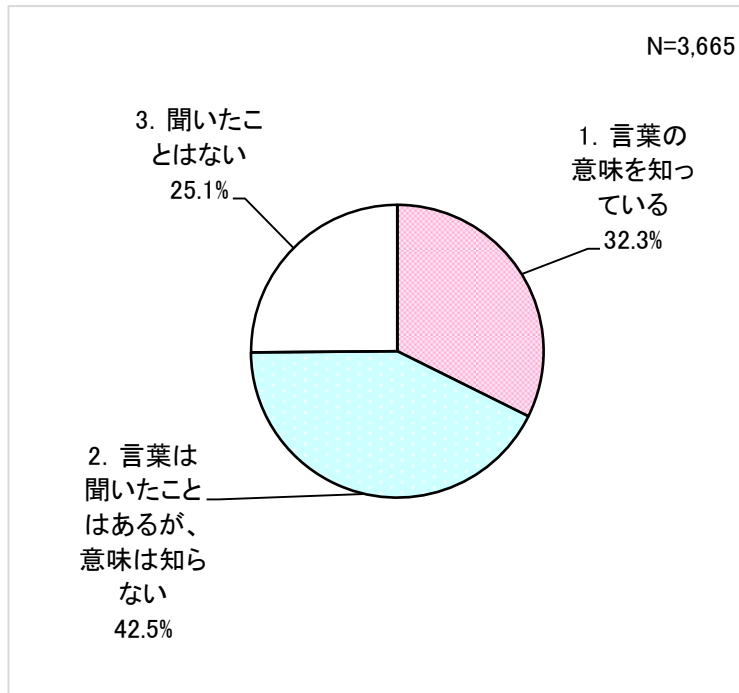
また、生きものの減少・絶滅の利用として特に該当すると思うものとしては「外来種などその地域にいなかった生きものを持ち込みによる生態系のかく乱」の選択が最も多く、外来種への関心の高さが示されました。

生物多様性保全につながるご自身ができる行動としては、「地元でとれたものを食べ、旬のものを味わう」、「自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれる」が多く選択され、参加してみたい行事としては「生きもの観察会」「農業体験」「農産物に関するイベント」が多く選択されました。食品や商品購入に関すること、生きもの観察などが、身近な行動として取り組みやすいことがわかりました。

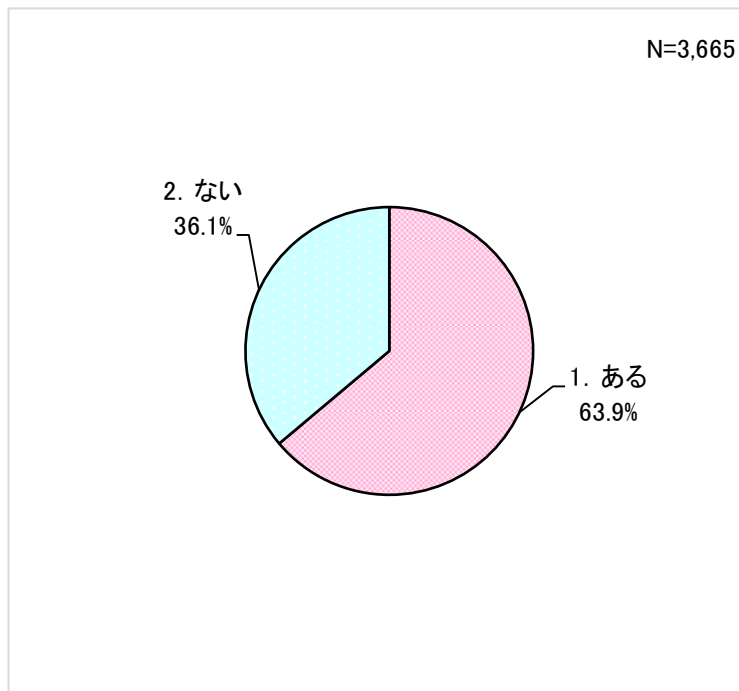
一方、神戸市が実施している生物多様性に関する行事、補助制度については「全く知らない」と回答した方が7割を越え、市民の皆様へのアピールが十分でないことがうかがえました。

今回のアンケート結果をもとに、より多くの方々に生きもの・自然とのつながり、共生について関心を持っていただけるように取り組んでいきたいと考えています。

問1 「生物多様性」という言葉を知っていますか。



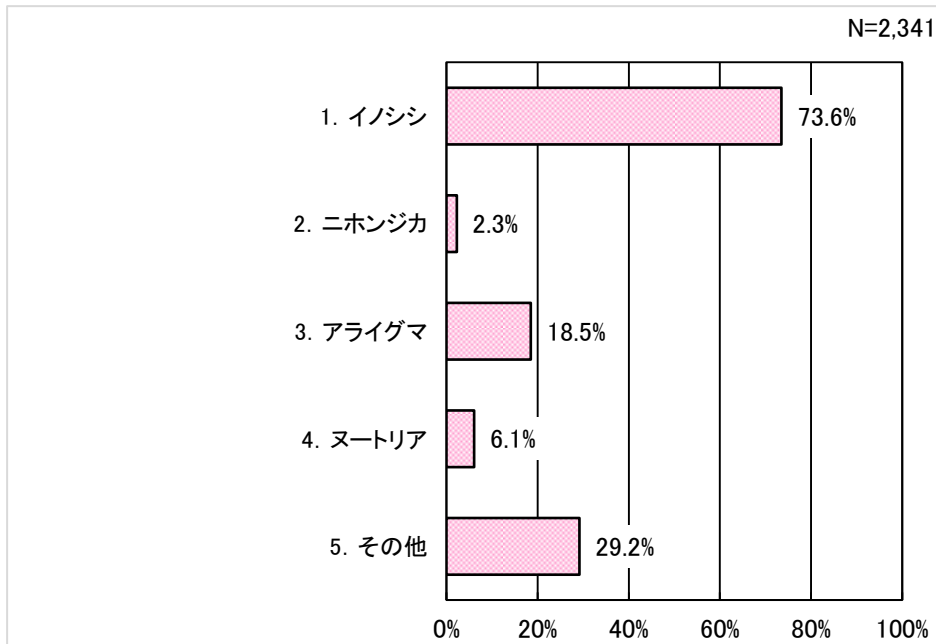
問2 市内の身近なところで野生動物を見たことはありますか。



<市内の身近なところで野生動物を見たことがある方>

問2-1

市内の身近なところで見たとある野生動物はどれですか。(該当するものすべて)



「5. その他」

- ・イタチ
- ・タヌキ
- ・キツネ
- ・サル など

問2-2

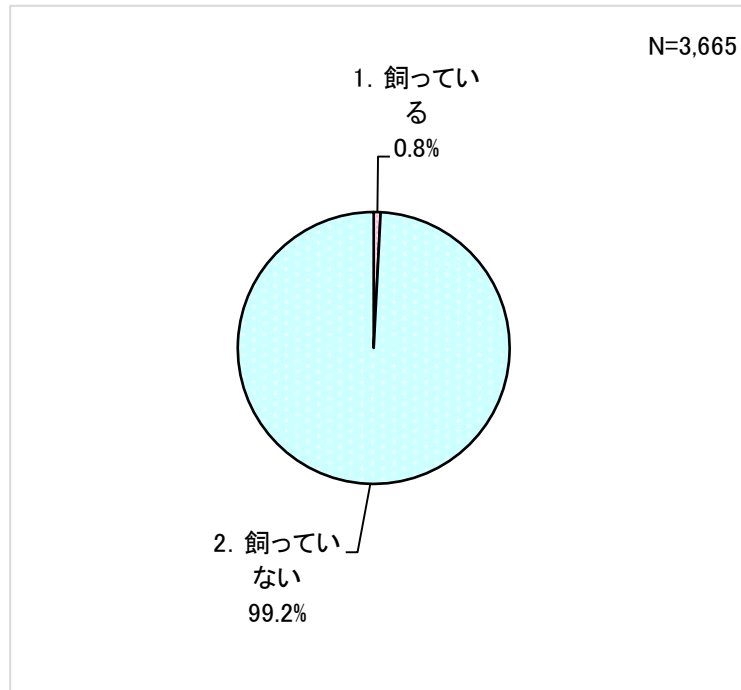
野生動物を見たときの状況（場所、時間帯、野生動物が何をしていたか等）を教えてください。

- ・イノシシについては、昼間に川の近くで見た、早朝や夜間に道路を歩いていた、ごみステーションでえさを探しているところを見たという情報を多くいただきました。
- ・アライグマについては、側溝にいるのを見た、アライグマにより畑の作物を食べられたことがあるという情報をいただきました。
- ・ヌートリアについては、池や川で泳いでいたという情報を多くいただきました。
- ・ニホンジカについては、北区で見たことがあるという情報を多くいただきました。

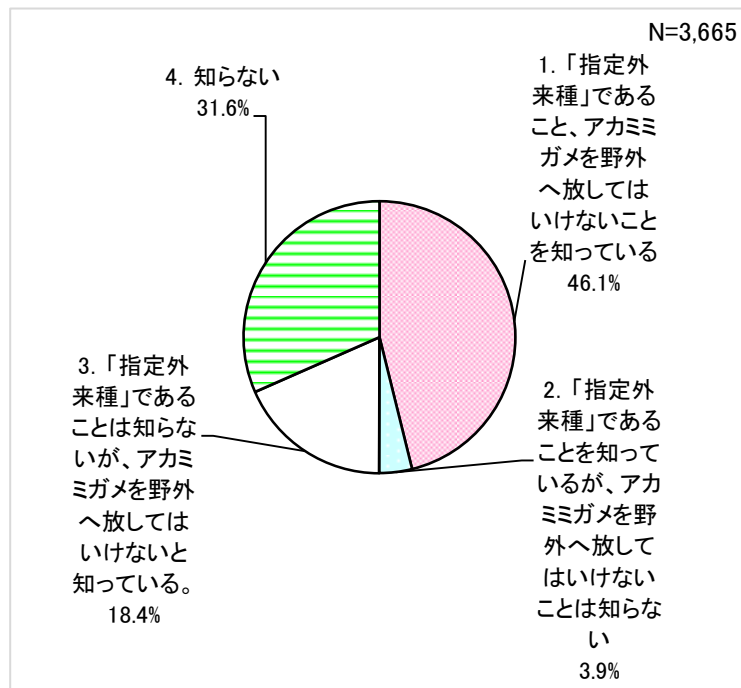
問3

「神戸市生物多様性の保全に関する条例（以下、「多様性条例」といいます。）」では、アカミミガメ（ミドリガメ）を生態系等に被害を及ぼしうる外来種（「指定外来種」として指定しています。

アカミミガメ（ミドリガメ）をペットとして飼っていますか（多様性条例では、アカミミガメを飼うことは禁止されていません。）

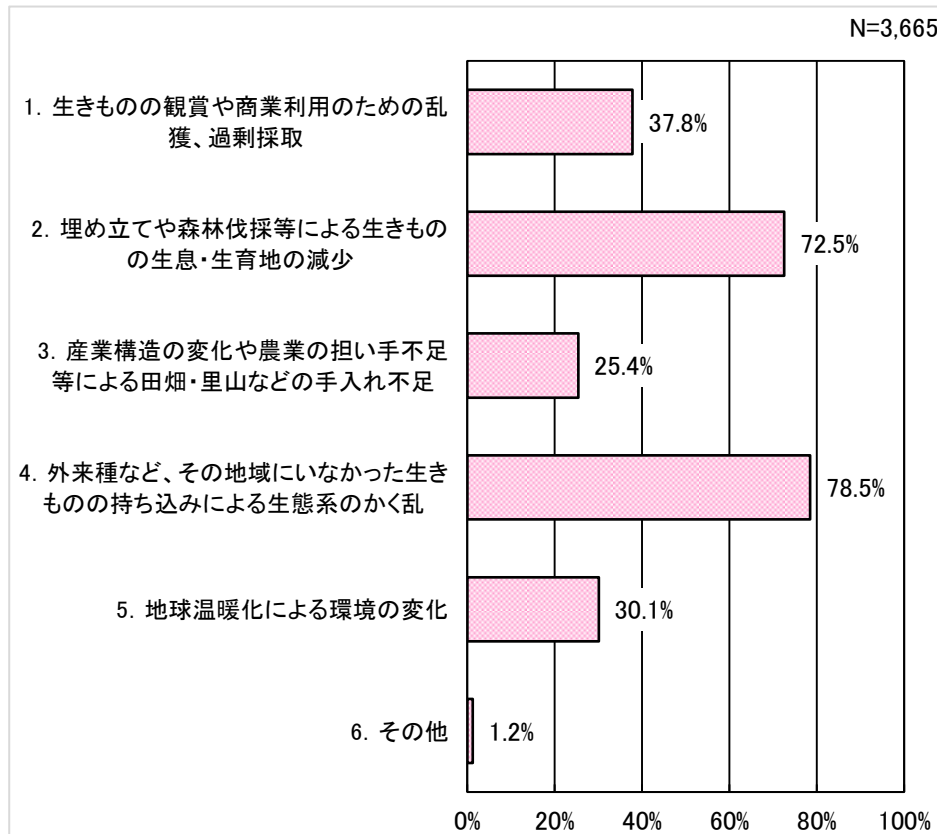


問4 アカミミガメが多様性条例で「指定外来種」であり、ペットのアカミミガメ（ミドリガメ）を野外へ放してはいけないことを知っていますか。



問5

現在、私たち人間の活動に起因して、生きものの減少・絶滅が進行しています。緑豊かな六甲山や多くの河川等を有する神戸市では、これまで7662種の生きものが確認されていますが、そのうち871種は絶滅のおそれがあります（「神戸版レッドデータ2015」より。）。このような生きものの減少・絶滅の理由として特に該当すると思うものを選択してください（3つまで）。

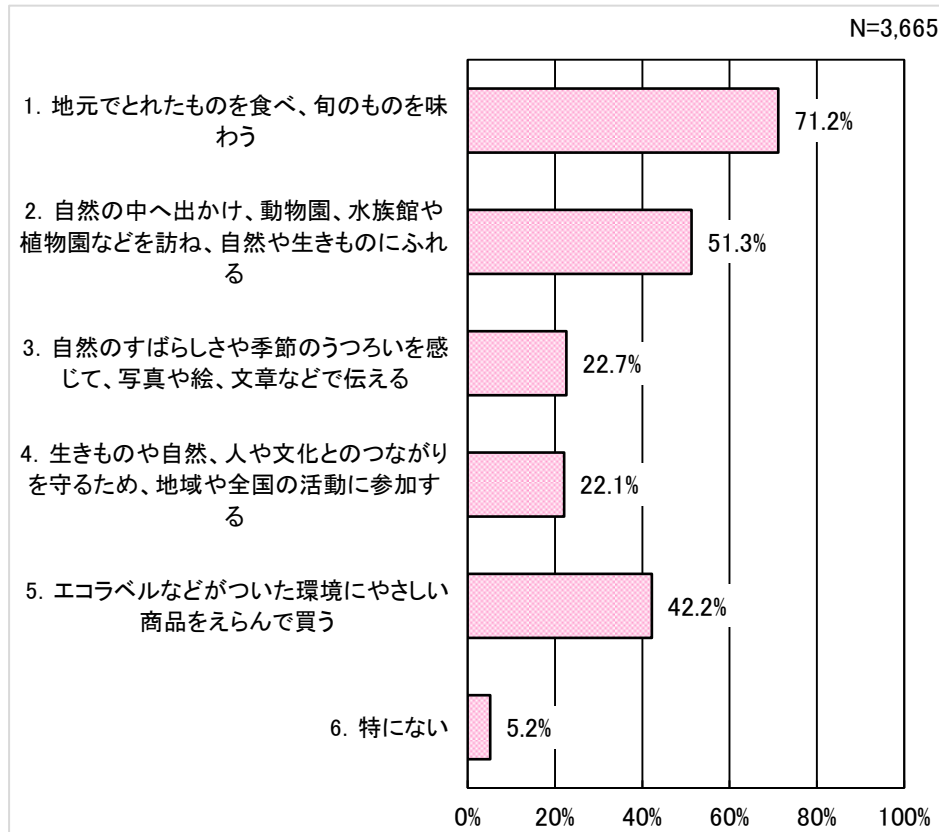


「6. その他」

- ・餌付け
- ・希少性に対する情報共有が不十分
- ・捕食者の減少（イノシシ・鹿の激増）
- ・人間の知識不足。住みわけが上手くできていない。 など

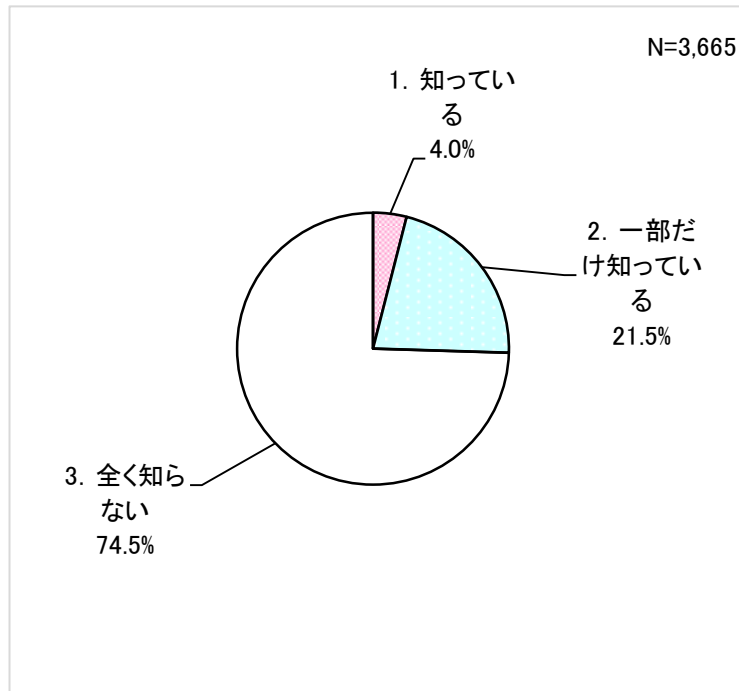
問6

多くの生きもののつながりや関わりを日々の暮らしの中で実感して、身近なところから行動することが、個性豊かな生きものや、その生育・生息環境を守るための第一歩であるとされています。ご自身の行動として、できることを選択してください（該当するものすべて）。



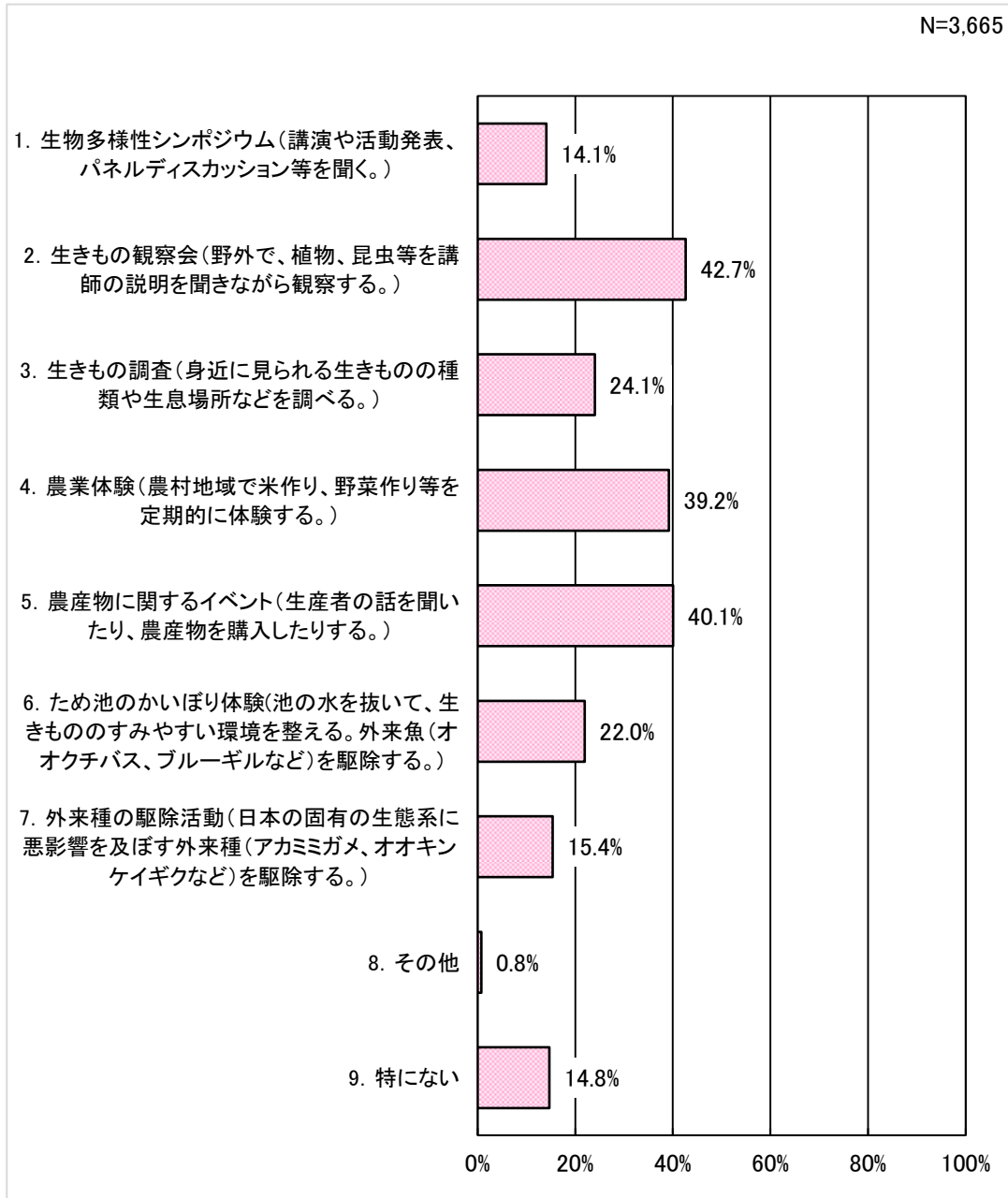
問 7

神戸市では、生物多様性に関する市民の皆さまのご理解を深めるため、生物多様性シンポジウムや生きもの観察会を開催したり、生物多様性保全活動を行う団体への補助制度を設けたりしています。このようなシンポジウムや観察会、補助制度があることを知っていますか。



問 8

自然環境や生きものに関する行事で参加してみたいものを選択してください。(該当するものすべて)



「8. その他」

- ・ 里山再生活動
- ・ 外来生物への理解を深めるイベント
- ・ 子どもが学べる体験であれば何でも など

問9

生きもの・自然と共生する都市“こうべ”についてご意見、ご感想があればご入力ください。

- ・人間の利便性と生物の生存バランスをとり、後世の人の生活を脅かさないように、個人が意識して生活する必要があると考えます。
- ・地産地消だけでも市民が毎日協力出来るとおもいます。
- ・絶滅危惧種がこんなに多いとは知りませんでした。もっと市民へ周知し、一人一人が環境に対する危機意識を持てたらと思います。
- ・昨年、王子動物園で開催いただいた生物多様性シンポジウムに参加させていただきました。動物園のチケットをもらうことを目的に参加したのですが、シンポジウムの内容がとても興味深く、生物多様性について興味を持つようになりました。また同様のシンポジウムを開催するのであれば、是非参加したいです。
- ・比較的自然環境に恵まれた都市にありながら、もっと環境保全活動を進めてゆく必要性を感じます。地味な活動に見えますが、より多くの人々の理解が得られるようなPRがもっとなされても良いのではないかと思います。
- ・人間は動物達の命を頂いて生きているので、ご飯を食べる時に頂きますという言葉は大事な事だと思う。もっと自然からの恵みと、命が犠牲になって生かされていると言う事をもっと知るべき。
- ・野生動物と共生することは難しいです。ペットとして飼いきれなくなったら捨てる人も多いと聞きます。私たちが意識を変えないと何も変わらないと思います。啓発イベントは必要だと思います。

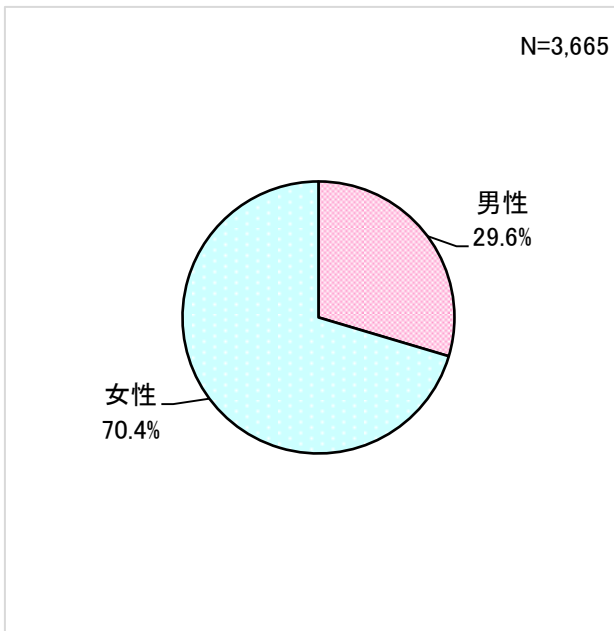
全 981 件のご意見をいただきました。ありがとうございました。

【参考】

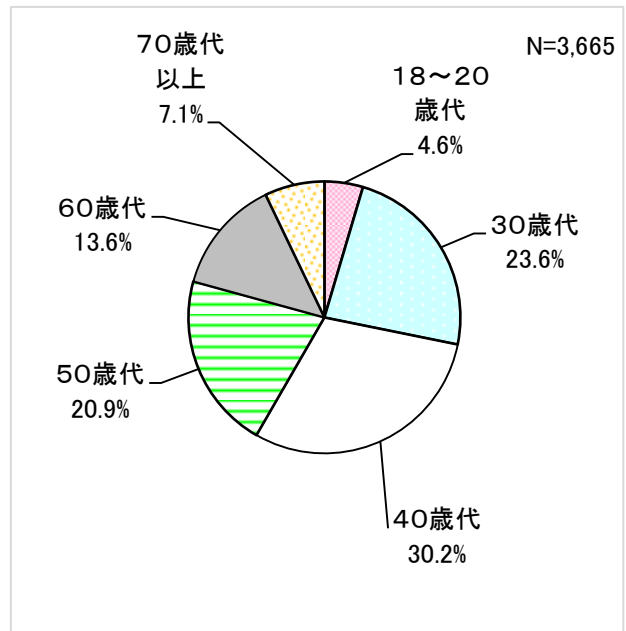
神戸市の生物多様性に関するポータルサイト

<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/index.html>

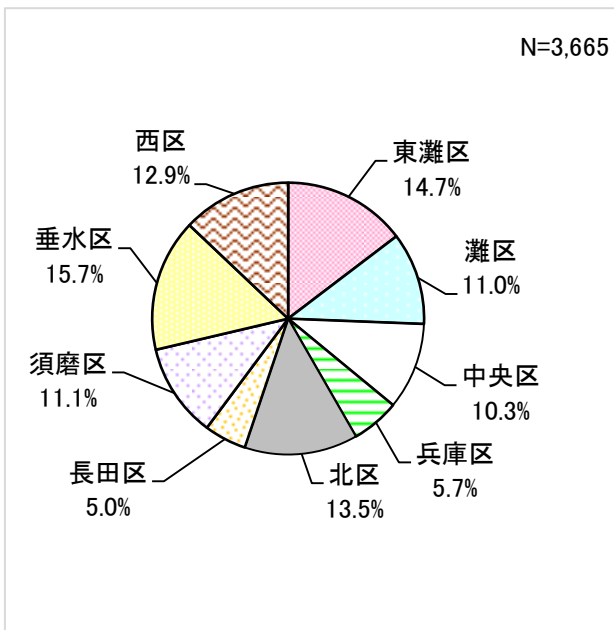
【性別】



【年代】



【居住区】



【職業】

